

新しい文化財が仲間入り ～令和2年度鹿児島県指定文化財～

文化財課

令和2年度県指定文化財

令和2年4月28日に、県指定文化財として8件を指定しましたので紹介します。これで県指定文化財は合計310件となりました。

有形文化財（3件）

加計呂麻のアシャゲ

「アシャゲ」とは、ノロ信仰に伴う祭儀を執り行う空間として古くから用いられてきた建築物です。沖縄由来の「神アサギ」が奄美大島に伝わり、独自の変化を遂げて奄美大島特有の「アシャゲ」建築のスタイルになりました。



廣泉寺の木造阿彌陀如来立像 附 紙本納入品

本像はかつて、枚聞神社の別当寺院、瑞応寺に祀られていたと伝えられています。像高は96.8cm、ヒノキ材を用いた寄木造で、表面は漆箔仕上げとしています。鎌倉時代初期の仏師快慶によって創始された作風である安阿彌様を踏襲した仏像であり、制作時期は鎌倉時代後期（13世紀～14世紀）と考えられています。



中甫洞穴出土品

中甫洞穴は知名町久志検字水窪に所在します。

遺物は、下層から縄文時代早期後半以降の縄文土器、上層から弥生時代～古代並行期の土器、その他石器や貝類、動物骨などが出土しています。また、類例の少ない土器やそれに伴う石器や牙器、貝器なども出土しています。



無形民俗文化財（2件）

入来神舞

入来神舞は、大宮神社の例祭（11月23日と大晦日）に、五穀豊穡を願い奉納されている神楽です。舞は種類によって異なりますが、1～12人の男女で構成され、楽は太鼓1人、笛1人です。従来、36番ありましたが、現在は7番ほどが舞われています。



王子町鉦踊り

王子町鉦踊りは、宝暦3（1753）年の新田開発をきっかけに、水神への感謝をこめて奉納されてきました。かつては水路の流域にある集落でそれぞれ鉦踊りは奉納されていたようですが、今は鹿屋市の王子町と川東町（光同寺鉦踊り）のみとなっています。鉦などを用いた「鉦踊り」と、カラスが飛ぶような所作が特徴的な「からす舞」の2種類から構成されています。



天然記念物（3件）

阿久根市光礁と五色浜

阿久根市の戸柱公園・護国神社境内下の海岸は五色浜と呼ばれ、海岸に露出しているチャートが波に洗われ、様々な色をしたチャートの礫浜になっています。五色浜のチャート層や泥岩からは化石が見つかり、化石から堆積時代がわかった鹿児島県本土で最も古い地層です。



指宿市知林ヶ島のトンボロ

知林ヶ島は指宿市本土の田良岬の沖約800mに位置する無人島です。その知林ヶ島と田良岬を結ぶ砂州をトンボロといい、干潮時に現れ、満潮時には水没します。このトンボロは北側と南側で流向が異なる沿岸流の境目に砂が堆積してできると考えられています。



屋久島早崎海岸の鉦脈群

この鉦脈群は、明治末に屋久島空港の南にある早崎海岸の切り立った崖で発見されました。早崎鉦山として昭和30年代まで稼働され、廃坑後もその全容を知ることのできる数少ない鉦山跡です。早崎鉦山は、約1,600万年前（新第三紀中新世）の花崗岩マグマの活動に伴って、周辺部の堆積岩中に生成された鉦床です。

